

喜界町

図書館だより

2月号

【通算 第248号】

2017（平成29）年2月1日発行

〒891-6201

喜界町大字赤連字樋口前30番地

TEL : 0997-65-0962

FAX : 0997-65-2523

e-mail:kikailib@town.kikai.jp

ブックスタート

図書館からの

プレゼント！

（コットンバッグ・絵本）



赤ちゃんと保護者が絵本を介してゆつくり心ふれあうひとときをつぎつかけつくりのお手伝い。

「赤ちゃんおはなし会」

日時：平成29年2月3日（金） 午前11:00より

=====

「生活の中に図書館を！」

=====

本は家族の一員です！

=====

「当たった！大吉だ！」「良かったね。年始めからいいねー。」子どもの弾けんばかりの笑顔とニッコリ笑った父親の顔。弾んだ声。「図書館で運だめし」のおみくじを引いた時の親子の一幕です。ちなみに「大吉」は図書券でした。

さて、すでに多くの方が指摘しているところですが、読書は自分の拙（つたな）い経験・知識を補い、未知の世界を体験させてくれるものです。作家が渾身の力をこめて書き上げた作品を読むほどに、新たな出会い、知識の広がり、感情の高ぶりに胸を躍らせます。埋没した過去の出来事、時代や国を異にする社会とそこに生きる人々の営み、人間の心の奥底に眠る感情、社会、人文、自然科学など学問上の様相を作家、著者は独特の臭覚で捕らえ、切り取り、料理をします。私たちは、労せずしてそれらを手に取り、賞味し、共鳴し、学ぶことができます。もちろん、私たちを取りまく表現の媒体は、書に限られたものではありません。ゲームやアニメの鮮やかでテンポの速い映像、豪華なスターと壮大なロケによる不朽の名作やベストセラーの映画化など……。これらのメディアの価値は目を見張るものがあります。ただ読書は、万人が楽しむことができる、もつとも経済的な手段です。

町図書館には、約6万冊の蔵書があります。大人向け、子ども向けの本や雑誌（科学雑誌、歴史雑誌……）あらゆるジャンルの本を揃えてあります。町民の皆さん、今年こそは自分好みの興味・関心のある本を1冊手に取ってみてはいかがでしょうか。楽しく、明るく希望の持てる一年になるかも知れません。町民の皆様のご来館をお待ちしています。

=====

《島の伝説》

~~~~~

ボーズンメー（坊主前？）

~~~~~

現在の喜界町体育館辺りを“ボーズンメー”と言っている。太平洋戦争中には、巖部隊の一部隊が駐屯していたボーズンメーに墓石が一基あった。近くの人は、俊寛僧都（しゅんかんそうず）の墓だ、と崇め、畏敬（いけい：かしこまり敬うこと）としていた。いつの頃からか誰が建立したかはつまびらかではないが、ボーズンメー（坊主前？）の名称も、「坊主の墓前」に基因するのかな？

古老の話では、7・8百年前（1260～1160年）までは、夜な夜な白い馬に乗った坊主が、鈴を鳴らしながらボーズンメーを歩き回ったもので、それは、僧俊寛の死霊が荒御魂（あらみたま：荒くはげしい神霊）となつてあらわれるためだ、と語られ恐れられていたことである。（来月号に続く）

【参考文献： 喜界島古今物語 三井喜禎著 広辞苑 岩波書店】

（文責：登山 典壽）

《♥ クリスマスおはなし会にたくさんのご参加 あいかとうございました。♥ 》

昨年12月2日（土）、喜界町図書館のクリスマスおはなし会に大勢の子どもたちが、参加していただきました。あいかとうございました。12月なのに、冷房をつけながらクリスマスおはなし会が開催されました。

図書館職員とボランティアグループ「ころころの会」で手袋人形・顔出し紙芝居・みんなでハンドベル・ゲーム等を行いました。最後にトナカイをつれたサンタさんから、プレゼントがありました。



喜界高校生の2年の幸田千波さん、橋川彩乃さんの2名が12/6～12/9、喜界町図書館で職場体験学習を行いました。カウンター業務をはじめ、本の配架や団体図書の貸し出しや図書館だより、おりがみコラ大会のちらい作成等の図書館業務を数多く体験をしました。



～大活字本の新刊本～

☆ 院長の恋

佐藤 愛子 著

☆ 騒いゆく夏 上下

赤井 三尋 著



『ぬいぐるみが 喜界町図書館でおどまいたよ！』

昨年の12月2日（土）、子どもたちのお氣にいいのぬいぐるみが喜界町図書館で「おどまい会」をしました。おどまりしたぬいぐるみが、夜の図書館を探検！



お知らせ

『♥喜界島♥

ゆかいの文学を楽しむ会』

の参加者を募集しています。

対象者

興味のある方は、年齢を問わずどなたでも御参加いただけます。

申込みは、図書館まで

2月11日（土）の

祝日も

開館しております。